

品川支部

令和元年11月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

11月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

令和元年 品川支部おつとめ総会

今年の「おつとめ総会」は櫻京分教会会場で行われ支部内の教友が大勢集まり、座りつとめから十二下りまで勤められました。品川支部ではおつとめの後は、支部の活動状況を十分程度、支部長から説明があり、楽しく過ごすがテーマなので、すぐに懇談会となるのが常であります。懇談会では焼きそば、フランクフルト、おでん、カレーの模擬店で昼食、ビール飲み放題という事で、プチケーキのデザートまで有り、日ごろなじみのない方同士での懇談に花が咲いていました。総会は百名を目指しており、もう少しですので、来年も沢山の方のお越しをお待ちしています。



おつとめ後懇談会

☆支部行事のお知らせ

支部例会十一月三十日(二頁参照)

・神名流し

一日大井町駅前にて

・在宅センターひのきしん

十一月二十七日(水)午前九時半〜十一時

・教区ひのきしん

担当は都南組です宜しくお願い致します

・幹事会

九日、都南分教会にて六時から

☆教務支庁からのお知らせ

・東京教区おつとめ総会十一月十七日

今年「東京教区おつとめ総会」が十一月十七日に十時から十四交代で勤められます。

これは、東京教区内にお住いのようばくの方対象で普段のおつとめと異なり、教会長以外の方に勤めて頂く事を目的にしています。是非教友の方の参加をおねがいいたします。

・災害隊関連

このところの大きな川の氾濫で、教内でもかなりの数の教会に被害が及んでおります。特に千葉県は度重なる被害で、復興の努力の気もそがれるほどであります。災害隊の出動も数多くなっています。皆様のご協力もいただくことになると思っておりますが宜しくお願い致します。

・婦人会から決起の集い参加の御礼

来年に迫りました婦人会創立百十周年 会員決起の集いが五月から二十二会場でおこなわれましたが、九月十六日の最終日までに、会員七千七百七十一名の参加を頂きました。スタッフの方を含め参加の方皆様に御礼申し上げます

・女子青年大会

第二十九回女子青年大会が十一月三日十時から、本部中庭にて開催されます。教区でも、バス団参を用意させて頂きます。出発は二日で帰りは四日になります。

・天皇即位の礼

十月二十二日の即位礼正殿の儀は、正殿の儀と同時に雨が上がり日が差して虹まで祝福をするという、驚きをもつて海外に報道されましたが、続いて十一月九日には「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」が行われます。天理教は従来通り、委員会の団体であり、真柱様は委員の構成委員となります。グループの嵐の出演とあって大変な混雑が予想され教区では交通整理等青年会を中心に協力させていただきます。

拠点教会	3日号	10日号	17日号	24日号
日本橋	直送	手配り	手配り	手配り
本 荏	手配り	手配り	手配り	手配り
南 泰	手配り	手配り	手配り	直送
三ツ木	手配り	手配り	手配り	手配り
水豊田	手配り	手配り	手配り	手配り

時報手配り十一月予定

親と子の関係



豊英分教会栗原会長

現代の親子関係等に悩んでいる方は予想を超えて多いことが民生委員や、教会の仕事を通して感じるようになってきました。中でもお道のお助けをするときに我々教人は親と子が当然のように昔ながらの強い絆であることを前提に諭すと全く、かみ合ってこない思いをすることがあります。これは人の歴史の内、ほんの数十年前で大きく変わった価値観にあると思えます。

二万年の歴史の農耕、狩猟の時代は勿論、家業を継ぐことが当然であった近代までは、親は育ててくれた事に加え学ぶときは常に師匠であり先輩で、仕事の上では上司という立場で有った訳ですから、唯一無二の大切にしなければならぬ大人と言う事になります。そこで親が年老えば当然のようにに恩返しの意味でも大切に

品川支部例会

令和元年11月30日 (土)

場所 都南分教会

(品川区南品川6-6-7)

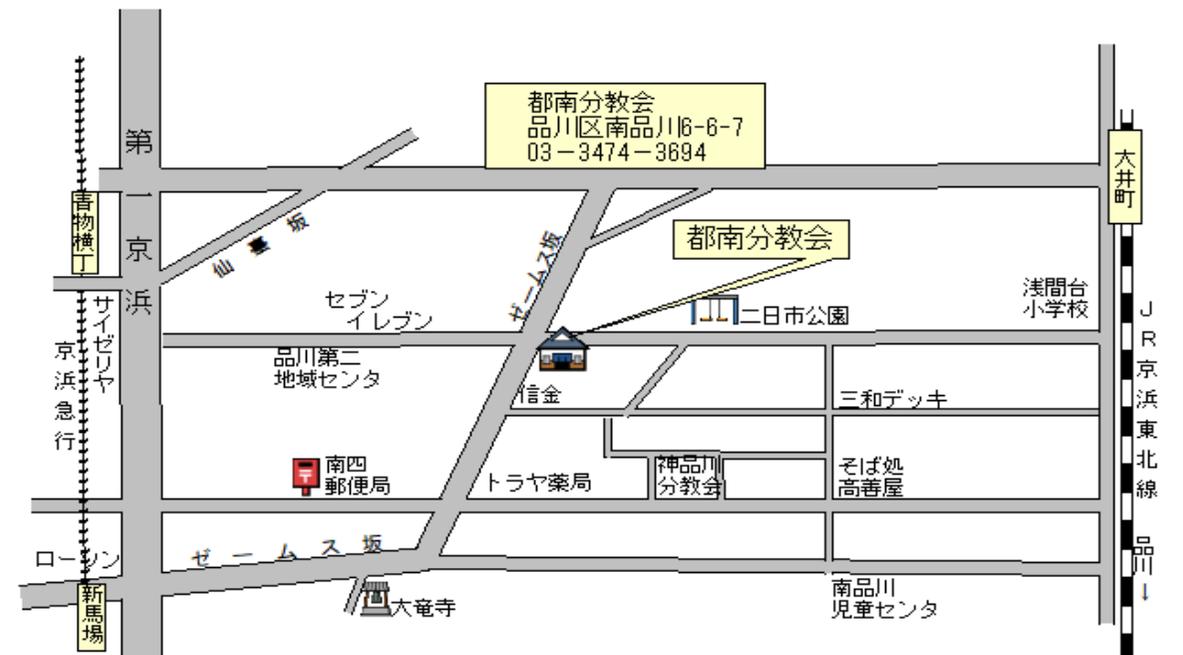
内容 座りづとめ よろづよ 十一下目

東京教区、支部連絡事項

当該西海会長挨拶

昼食の用意頂いてます

*支部内教友の方対象 (白足袋ハッピー着用)



接してきたし、自分が親の立場になり家族を養うことを誇りとしてきた訳です。農耕では鉄器の出現による初めての变化に一万八千年かかり、その後千三百年経て農業革新が有り、そして、本格的に変わるのは、今からほんの百年前くらいから学問も技術も近代的革新され、生活環境は生まれ育ちで無く、お金で買えるという急変化をもたらしました。それはそれで素晴らしいこと、親は積極的に子供に投資し学ばせ、少しでも自分より良い生活(?)をさせるために粉骨惜しまず協力するように頑張ってきま

した。当然家業を継ぐことは希になり親と異なる職業となっていく訳であります。これは、恩師、先輩、上司等尊敬の対象も分散化し、親への概念が大きく変わり、嫌な言い方を敢えてすれば親は可愛がってくれるスポンサー的な存在になってきたと言う事になります。

更に最近の知識や技術に於いては、子供より遙かに無知であり教えて貰う立場に変わってしまった部分が大きくなってきました。かく言う私も、日進月歩のコンピュータ業界で最先端を担ってきた自負があります。が、今ではスマホの操作等は子供に教わると行った具合であります。まあ現在は教会長という立場を頂いて、ますので、なんとか先人としての立場を維持させて貰っているところなんです。

うちの親は今のことを何も理解してくれないという子供の言い分と又、親の方は、あれだけ可愛がった子が家にも立ち寄らず、孫にも殆ど会えず、育て方が悪かったのかといった話をよく聞かされます。

ついこの間まで新しい家庭が、核家族とか夫婦共稼ぎとか言われていたと思っただら、最近ではこの言葉も無くなってくるほどそれが当然の社会になってきました。今私と同じくらいの方は、

丁度この双方の考え方が理解できる年齢と言えると思います。さりとしてどのようにこのような断絶親子を取り持っていけば良いかは考えさせられるところでもあります。この難しい問題に私自身は、子供の方に良く話を聞いてから、三十年後自分の家庭では親子関係はどうしたいと思えますかという質問をします。価値観が違っても相手の立場になって考えるきっかけが大事だと思っ訳であります。その中で心が「人を思いやる心」「人助けたら我が身助かる」という基本のお道の教えにたどり着く事が多いように思います。

価値観の変化はこの後も、更にスピードを上げて進んでいく事と思いますが、それらを受け入れながら行ってもこれが基本という信念でお助けに励みたいと思えます。